

登録コード:MH258200 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	病理検査学【20M以降】 Theory in Histotechnology			
担当教員	木村 文一 太田 浩良			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	検査技術科学専攻/2年		前期	金曜・1時限
単位数、講義室	1 単位	保健学科 2 1 1 講義室	保健学科形態系実習室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH20カリ・保健			
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。		実習を通してと病理検査の流れと方法を理解する。	
	MH25カリ・保健・検査、MH23カリ・保健・検査			
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		実習を通して病理検査の流れと方法を理解する。	
授業で学べる「テーマ」	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		講義と実習を通して、医療社会における病理検査のあり方を理解し、探究心を持つ力を身につける。	
	環境共生、健康長寿、キャリア			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	病理検査（病理診断）は患者から採取された組織または細胞を肉眼的あるいは顕微鏡的に観察して、悪性のものであるかあるいは炎症性のものであるかなどを形態学的に判断する検査である。しかし、今日の病理診断は診断精度を高めるため形態学的所見に加えて免疫反応やin situ hybridizationなどを応用した組織細胞化学的検査法が併用されている。授業では今日の多様化した病理検査の実情を踏まえ、病理検査の意義とその過程を理解する。本授業は臨床検査技師としての実務経験を活かして講義・実習を行います。また、1年次に学んだ「組織学」「組織学実習」「系統解剖学」の知識を前提とし、3年次に学ぶ「病理組織検査学実習」「細胞診検査学実習」、4年次の臨床実習における重要な基礎知識になります。			
授業計画	第1回（4月10日）病理的検査の意義と流れ、組織検査法，病理解剖 第2回（4月17日）臓器肉眼的観察・写真撮影と記録，臓器・組織別の取扱い法 第3回（4月24日）組織検査材料の固定法 第4回（5月8日）実験動物(マウス)の解剖と組織固定法の実践【学内実習】 第5回（5月15日）実験動物(マウス)の解剖臓器の切出しの実践【学内実習】 第6回（5月22日）パラフィン標本作製法（固定・切り出し・脱灰・脱脂・包埋・薄切）【学内実習】 第7回（5月29日）パラフィン包埋【学内実習】，中間試験 第8回（6月5日）パラフィン包埋(実習)(中間試験) 第9回（6月12日）薄切法【学内実習】 第10回（6月19日）薄切法【学内実習】 第11回（6月26日）ヘマトキシリン・エオジン染色【学内実習】 第12回（7月3日）組織標本観察法，組織標本評価法（ヘマトキシリン・エオジン染色標本）／標本の観察と評価法（切り出しを含む）【学内実習】 第13回（7月10日）検査結果の解析と評価（組織検査）【学外実習】 第14回（7月17日）迅速検査の意義と標本作成法(凍結標本作製法)，脂肪染色法（鏡検スケッチ含む），染色標本の観察・評価法／精度管理と標準化，検査結果の解析と評価【学内実習】 第15回（7月24日）迅速病理診断（検査）の意義と標本作製法，組織標本作成法（凍結標本含む）（授業アンケート） 第16回（7月31日）期末試験			
授業の進め方	講義と実習(本科目は実習科目ではないが、理解を深めるため実習を取り入れて行う) 本授業は、パワーポイントのスライド、配布資料、そして、板書に基づいて進めて行きますが、能動学習による理解の深化を目指すため、質疑応答にも重きを置いて展開していきます。			
テキスト，教材，参考書	教科書： 1)病理検査学実習（プリント）：後日配布します。 2)最新臨床検査学講座 病理学/病理検査学 第1版(医歯薬出版) 3)ポケットマスター臨床検査の整理 病理学/病理組織細胞学(医歯薬出版) 参考書： 金井正光 編著:臨床検査法提要第34版(金原出版) 最新染色法のすべて 第1版(医歯薬出版)			
成績評価の方法	中間試験、実習レポート、期末試験に基づいて総合的に成績を評価します。総合評価の配分は、中間試験、実習レポート、期末試験いずれも100点満点とし、中間試験、実習レポート各10%、期末試験80%の配分率で合計したものを最終評価とする。合計が60点未満は			

成績評価の方法	不可とする。 中間試験は第8回（6月5日）、期末試験は授業最終日第16回（7月31日）に筆記試験として行なう。 中間試験、実習レポート、期末試験では、細胞・組織の正常構造および機能、細胞・組織の採取方法および固定方法、ならびに薄切およびヘマトキシリン・エオジン染色法など、標本作製技術に関する理解度を確認する。
成績評価の基準	成績評価の判定基準は、90-100点:秀、80-89点:優、70-79点:良、60-69点:可 【筆記試験の場合】 採点の基準は、行動目標に関連した設問に対する選択式解答の正誤だけでなく、記述式解答における用語の適切さ、説明内容の範囲の広さや詳細さ、説明内容の論理的な妥当性などを指標とし、授業で説明した範囲における、最低限の解答内容であれば「水準にある（可）」、やや詳細な解答内容であれば「やや上にある（良）」、十分に詳細な解答内容であれば「かなり上にある（優）」、授業で説明した範囲以上に自身で能動的に学修した詳細な解答内容であれば「卓越している（秀）」と判定します。 【レポートの場合】 (i)問題の設定が適切であり、(ii)その問題の背景を説明できており、(iii)その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv)それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、(v)その上で自分の理解を提示できており、かつ教員を感心させるレベルにあれば「卓越している（秀）」。(i)から(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある（優）」。4項目まで出来ていれば「やや上にある（良）」。3項目までできていれば「水準にある（可）」。
事前事後学習の内容	【事前学習について】 毎回の授業の終わりに、次回までに調べてくるべき予習（事前学習）内容について説明を行います。 【事後学習について】 毎回、授業のはじめに、前回の授業の要点について復習（事後学習）してきた内容や、能動学習として学んできた内容についての質問を行いますので、自分の言葉で端的にわかりやすく説明できるように準備して授業に臨んでください。 本授業の単位習得には、45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間30時間(2時間×15回)+ 自己学習時間15時間(1時間×15回)= 45時間 以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	本科目は実習科目ではないが、実習を多く取り入れて授業を進める。実習は1コマの授業時間内で行うのでテキパキと行動するように。質問や相談は随時受付ける。 質問への対応：随時受け付ける。木村文一kimura_f@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時 保健学科中校舎3階 木村文一研究室